

発刊にあたって

東京オリンピックが開催される二〇二〇年に、母校である土佐中学校・高等学校は創立百周年を迎える。一九二〇年（大正九年）の創立時には母校を含めて高知県下の私立中学校は四校であった。それ以来九〇余年を経た二〇一四年現在では、中高一貫の私立学校が七校を数えるまでになっている。

私立校の数が増えたばかりでなく、土佐中高そのものも大きく変化してきた。創立時には男子生徒二五名のみでの入学であったが、二〇一四年度の中学校の入学定員数は二五〇名であり、一九四七年（昭和二年）からは男女共学制となり、二〇一三年現在で中高合わせて一六七〇余名が在籍している。男子生徒のみの少数英才教育から、今や男女共学の大規模校となった変遷を「土佐中学校・高等学校創立百周年史」（以下、「百周年史」と表記）として編纂・発行されることになっている。

近年、教育をめぐる社会環境が激変している。少子高齢化、日本国内だけでなく世界で役立つ人材を育成するというグローバル化、情報伝達技術の急速な進歩、地球温暖化などなど。親や社会が学校教育に求める要望も様変わりしている。このような変化に伴って、土佐中学校・高等学校も単に大学への進学率だけでなく、その存在意義をますます問われるようになっていくであろう。土佐中高ならではの「教育変革」が必要なのだ。そう考えると、創立百周年という節目の年に、創立以来の歴史を振り返る「百周年史」を編纂するのは非常に有意義なことである。「温故知新」と言われるように歴史に学んでこそ将来のビジョンが構築できるのである。そこで、二〇二〇年の「百周年史」の発刊に向けて、ビジョン構築の参考資料として向陽プレスクラブでは、二〇一一年に「向陽新聞バックナンバーCD」を編纂発行し、関係各位に寄贈した。

土佐中高ならではの「教育変革」を進めるためには「初心に帰る」ことも大切である。つまり、「土佐中学校の創立の原点を見直す」ことが不可欠なのだ。そうしないと、足元が定まらない変革になってしまう。創立の精神を生かしてこその変革が肝心である。そこで、土佐中高教育の原点を確認するための資料として、ここに『土佐中學校創立基本資料集』を編纂発行することになった。

この資料集では、母校創立のいきさつ、特に創立者である宇田友四郎・川崎幾三郎両氏の建学趣旨と、その意向を汲んだ三根圓次郎初代校長の教育方針・教育内容を当時の資料の再録で明らかにしている。これら資料は、母校の存在意義と今後の発展への方向を検討する基本資料であるが、一般には閲覧困難であり、この小冊子によって広く普及をはかる。創立百周年を迎えるにあたって、理事・振興会役員・教職員ばかりでなく、卒業生や在校生にもこの資料に目を通していただくことが、私立校としての発展につながると思考する次第である。併せて「百周年史」編纂に活用をいただければ幸いである。

〔向陽プレスクラブ会長 岡林敏眞・三三二回生〕

目次

現代語訳編

- 一 土佐中学校の設立（『宇田友四郎翁』昭和十四年より）
- 二 幾三郎翁と秀才教育土佐中学校（『川崎幾三郎翁傳』昭和十七年より）
- 三 三根圓次郎先生略伝（『三根先生追悼誌』昭和十八年より）
- 四 土佐中学校要覽（昭和五年十一月より抜粋）

（文中の注釈、ふりがなは編集者による）

原文編

- 五 土佐中学校の設立（『宇田友四郎翁』昭和十四年より）
- 六 幾三郎翁と秀才教育土佐中学校（『川崎幾三郎翁傳』昭和十七年より）
- 七 三根圓次郎先生略傳（『三根先生追悼誌』昭和十八年より）
- 八 土佐中学校要覽（昭和五年十一月より抜粋）

土佐中學校創立基本資料集解説

編集後記

181	163	142	133	100	81	62	54	23	4
-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	---